



# 平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月1日

上場取引所 東

上場会社名 持田製薬株式会社

コード番号 4534 URL <http://www.mochida.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 持田 直幸

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員

(氏名) 坂田 中

TEL 03-3358-7211

四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	68,620	1.1	11,569	△14.7	11,701	△15.7	7,485	△10.7
24年3月期第3四半期	67,874	11.7	13,556	21.3	13,878	20.7	8,383	25.3

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 6,937百万円 (△20.6%) 24年3月期第3四半期 8,736百万円 (40.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	72.25	—
24年3月期第3四半期	79.15	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	116,109	86,155	74.2
24年3月期	112,871	82,189	72.8

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 86,155百万円 24年3月期 82,189百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	11.00	—	15.00	26.00
25年3月期	—	13.00	—		
25年3月期(予想)				13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	88,500	2.7	12,100	△18.9	12,300	△19.5	7,700	△15.2	74.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期3Q	115,500,000 株	24年3月期	115,500,000 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

25年3月期3Q	11,942,922 株	24年3月期	11,872,160 株
----------	--------------	--------	--------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	103,600,788 株	24年3月期3Q	105,923,235 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
4. 補足情報 .....	9
(1) 主要製品の売上高 .....	9
(2) 医薬品開発状況 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における国内経済は、年末からの円安および株価傾向に景況感改善の兆しが見えてきているものの、全般としては海外経済の減速による外需落ち込みなどにより、景気低迷のまま推移しました。医薬品業界は、社会保障費財源確保の問題を背景とする継続的な薬剤費抑制政策の影響を受け、また企業間競争も加速しているなか、平成24年4月には薬価改定が行われ、引き続き厳しい事業環境にあります。

このような状況下、当第3四半期連結累計期間における当社グループ（当社および連結子会社、以下同じ）は前期に引き続き、グループ経営体制の整備、人員の適正化、全社的な生産性の向上への取り組みなど、経営全般にわたる業務改革を推進いたしました。医薬品関連事業では、重点領域の循環器、産婦人科、皮膚科、救急、および精神科にリソースを集中し、スペシャリティファーマを目指して、主力製品を中心とした学術情報提供活動を積極的に展開いたしました。また、ヘルスケア事業は、敏感肌のための基礎化粧品のエキスパートとして事業活動を行い、マーケティングの強化に努め市場開拓を図ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、686億2千万円、前年同期比1.1%の増収となりました。なお、増収要因には、前年同期に東日本大震災による持田製薬工場(株)本社工場の一時操業停止に伴う医薬品販売面への影響があったことが含まれております。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業では薬価改定の影響もあり、高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤「エパデール」、持続性Ca拮抗降圧剤「アテレック」等が前年同期を下回ったものの、経口プロゲステロン製剤の子宮内膜症治療剤「ディナゲスト」等が前年同期を上回る売上高となり、また平成23年8月に発売した抗うつ剤「レキサプロ」および平成24年1月から販売を開始した速効型食後血糖降下剤「ファスティック」も順調に寄与し、加えてジェネリック医薬品も売上高を伸ばしました。ロイヤリティ収入等が前年同期より減少しましたが、医薬品関連事業の売上高は656億5千1百万円、前年同期比1.1%の増収となりました。

ヘルスケア事業は、景気低迷で消費マインドが低下しているなか、抗真菌剤配合の「コラーージュフルフルネクストシャンプー&リンス」が伸長し、売上高は29億6千8百万円で、前年同期比1.7%の増収となりました。

次に当第3四半期連結累計期間の利益面ですが、医薬品関連事業の売上高増がありました。ロイヤリティ収入等の減少等により売上総利益が減少しました。また、研究開発費は減少したものの、研究開発費以外の販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は115億6千9百万円、前年同期比14.7%の減益、また経常利益は117億1百万円で前年同期比15.7%の減益となりました。四半期純利益は、74億8千5百万円で、前年同期比10.7%の減益となりました。

研究開発の状況につきましては、創薬研究所は独創的グローバル新薬の創製を目指して、引き続き、慢性疼痛、糖尿病・肥満の2分野にテーマを集中して活動いたしました。国内外の機関との共同研究等により研究活動の効率化を図り、敗血症治療薬（抗体医薬）、疼痛治療薬の導出活動にも積極的に取り組んでおります。

臨床開発面では、バイオ後続品G-CSF製剤「FSK0808」（遺伝子組換えヒト顆粒球コロニー形成刺激因子製剤、製品名：フィルグラスチムBS 注シリンジ「モチダ」）について平成24年11月21日に製造販売承認を取得しました。高血圧症治療用の配合剤「AJH801」（シルニジピン/バルサルタン配合剤）は、味の素製薬株式会社が製造販売承認申請中です。その他の開発パイプラインの進捗としては、潰瘍性大腸炎治療剤「MD-0901」の臨床第Ⅲ相試験、「レキサプロ」の社交不安障害の臨床第Ⅲ相試験、肺動脈性肺高血圧症治療剤「MD-0701」の臨床第Ⅱ/Ⅲ相試験、「ディナゲスト」の子宮腺筋症の臨床後期第Ⅱ相試験をそれぞれ実施中で、「エパデール」の非アルコール性脂肪肝炎の臨床第Ⅱ相試験（米国）は終了しました。

なお、「エパデール」のスイッチOTC医薬品は平成24年12月28日に製造販売承認を取得しました。

当第3四半期連結累計期間の研究開発費は、94億8百万円です。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の総資産は、1,161億9百万円となり、前連結会計年度末比で32億3千7百万円増加いたしました。

資産の増加は、主に流動資産のその他や投資有価証券の時価下落により投資その他の資産が減少しましたが、受取手形及び売掛金の売上債権が増加したためです。負債・純資産の増加は、主に配当金、法人税等の支払いがありました。四半期純利益により増加したためです。

### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、今後も厳しい状況が継続すると考えられますが、ほぼ計画に沿った業績で推移しているため、通期連結業績予想は、平成24年5月14日に公表いたしました数値から修正は行っておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(減価償却方法の変更)

当社および連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、これによる、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	22,290	23,900
受取手形及び売掛金	25,810	30,692
有価証券	12,329	11,333
商品及び製品	8,935	9,656
仕掛品	1,255	1,463
原材料及び貯蔵品	3,179	3,186
繰延税金資産	3,261	2,577
その他	2,341	967
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	79,401	83,777
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,121	6,945
機械装置及び運搬具（純額）	2,396	2,216
土地	6,093	6,093
その他（純額）	1,496	1,482
有形固定資産合計	17,108	16,738
無形固定資産	902	661
投資その他の資産		
投資有価証券	8,415	7,569
繰延税金資産	2,424	2,890
その他	4,619	4,471
投資その他の資産合計	15,459	14,931
固定資産合計	33,469	32,331
資産合計	112,871	116,109

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,096	10,925
短期借入金	875	875
未払法人税等	2,599	1,401
賞与引当金	2,647	1,488
その他の引当金	920	1,087
その他	6,732	7,185
流動負債合計	23,871	22,964
固定負債		
退職給付引当金	4,887	5,396
その他	1,922	1,591
固定負債合計	6,810	6,988
負債合計	30,682	29,953
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	83,095	87,679
自己株式	△10,645	△10,716
株主資本合計	81,550	86,063
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	639	91
その他の包括利益累計額合計	639	91
純資産合計	82,189	86,155
負債純資産合計	112,871	116,109

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	67,874	68,620
売上原価	22,983	25,109
売上総利益	44,890	43,510
返品調整引当金繰入額	8	—
返品調整引当金戻入額	—	18
差引売上総利益	44,882	43,528
販売費及び一般管理費	31,326	31,959
営業利益	13,556	11,569
営業外収益		
受取利息	20	18
受取配当金	197	159
その他	193	121
営業外収益合計	410	298
営業外費用		
支払利息	56	28
支払手数料	16	96
その他	15	41
営業外費用合計	88	166
経常利益	13,878	11,701
特別利益		
災害損失引当金戻入額	532	—
震災関連助成金	30	—
特別利益合計	562	—
特別損失		
固定資産除売却損	10	152
投資有価証券評価損	393	—
災害による損失	329	—
特別損失合計	734	152
税金等調整前四半期純利益	13,706	11,548
法人税等	5,323	4,063
少数株主損益調整前四半期純利益	8,383	7,485
四半期純利益	8,383	7,485



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	8,383	7,485
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	353	△547
その他の包括利益合計	353	△547
四半期包括利益	8,736	6,937
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,736	6,937

(3) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

## 4. 補足情報

(1) 主要製品の売上高

### 主要製品の売上高

(平成25年3月期 第3四半期実績)

(単位：億円)

製 品 名	前 期 平成24年3月期		当 期 平成25年3月期		対前年 同四半期 増減率 (%)
	第3四半期 実績	年間 実績	第3四半期 実績	年間 見込	
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤 エパデール	298	381	287	361	△ 4
持続性Ca拮抗降圧剤 アテレック	107	133	96	131	△ 10
子宮内膜症治療剤 ディナゲスト	41	54	54	66	+ 31
精神神経用剤 (自社販売分) レクサプロ	4	6	21	40	+ 379
抗ウイルス剤 アラセナーA	18	23	17	22	△ 6
速効型食後血糖降下剤 ファスティック	1	7	15	22	+ 766
血液凝固阻止剤 ノボ・ヘパリン	14	18	14	16	+ 1
膝炎・ショック治療剤 ミラクリッド	15	19	14	16	△ 2
自律神経調整剤 グランダキシシ	11	14	10	13	△ 8
真菌症治療剤 フロリード	8	11	9	11	+ 6
子宮内膜症・子宮筋腫治療剤 スプレキュア	9	11	8	11	△ 6
止血剤 トロンビン	8	10	7	9	△ 7
後発品	28	37	34	49	+ 19
スキンケア製品	29	38	29	40	+ 2

注) レクサプロは平成23年8月から、ファスティックは平成24年1月から販売を開始しました。

(2) 医薬品開発状況

## 医薬品開発状況

開発番号(製品名、一般名など) : 導入先など			
開発段階	適応症	剤型	備考
AJH801(未定、シルニジピン/バルサルタン配合剤) : 味の素製薬(株)と共同開発			
承認申請中	高血圧症	経口剤	平成24年10月申請
MD-0901(未定、メサラジン) : 英国シャイア・ファーマシューティカルズ・グループ社から導入			
臨床第Ⅲ相	潰瘍性大腸炎	経口剤	
MLD-55(レキサプロ、エシタロプラム) : デンマーク ルントベック社から導入			
臨床第Ⅲ相	社交不安障害	経口剤	< 効能追加 >
MD-0701(未定、トレプロスチニル) : 米国ユナイテッド・セラピューティクス社から導入			
臨床第Ⅱ/Ⅲ相	肺動脈性肺高血圧症	注射剤	
MND-21(エハ <sup>o</sup> テール、イコサヘ <sup>o</sup> ト酸エチル)			
* 臨床第Ⅱ相終了	非アルコール性脂肪肝炎	経口剤	< 効能追加 >
MJR-35(テイナゲスト、ジエノゲスト) : 独国イェナファーム(ハイエル・ファーマAG)社から導入			
* 臨床後期第Ⅱ相	子宮腺筋症	経口剤	< 効能追加 >

\* 変更等のあった品目